

# 希望坂(北中だより)

第11号 令和5年10月17日

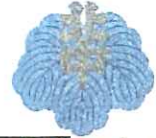
みやき町立北茂安中学校

校長 古賀 健司

<https://www.education.saga.jp/hp/kitashigeyasu-j/>



## 学校教育目標



「夢や目標をもち

チャレンジ精神と思いやりの心に

満ちあふれた生徒の育成」

## ◇三養基・神埼地区中学校駅伝大会◇

10月5日(木)、秋空の下、地区中学校駅伝大会が吉野ヶ里歴史公園で行われました。(敬称略)

女子	5区間(3km、2km、2km、2km、3km)	総合1位 三養基地区1位(※県大会出場)
男子	6区間(4km、3km、3km、3km、3km、4km)	総合2位 三養基地区1位(※県大会出場)
女子区間賞	2区 ○○○○(7分27秒)、4区 ○○○○(7分48秒)、5区 ○○○○(12分37秒)	



これまで多くの生徒が駅伝練習に励んできました。1年生で出場した選手がいれば、出場機会がなかった2,3年生もいます。それでも3年生を中心とした上級生が、チーム全体の雰囲気をつくり、みんなの力を引き出していました。

お世話になった人や共に頑張った人の思いを受けながら、自分はどう行動するのか、次の人にどう繋ぐのか…人生(人としての生き方)の大きな要素だと思いますが、駅伝は、タスキがそれを象徴する競技だと思います。一生懸命に応援・競技する生徒や先生方を見ていると、一人一人が心のタスキを渡し、受け取ったものに自分の精一杯の思いを込めて次の人へと渡しているように感じました。

アンカーを務め、総合1位でゴールした○○○○さんは、「最後まで、追い抜かれるんじゃないか、ゴールまでたどりつけなかったらどうしよう?などいろいろな思いが湧いてきてすごく怖かった。」と話してくれました。責任を果たしたその表情は、安堵した気持ちや全力を出し尽くした充実感にあふれ、輝いていました。



## ◇避難訓練(不審者対応)◇

10月10日(火)、鳥栖警察署生活安全課の大坪貴史様、防犯アドバイザーの平尾昌晃様と鳥丸鶴一様のご指導のもと、校内に不審者が侵入したとの想定で避難訓練を実施しました。

2001年に発生した痛ましい事件後、実施されるようになった訓練です。職員は、学校で不審者を発見した際に連携して生徒を安全に避難させる方法を確認しました。

生徒も、場面に応じて自分や友達の命を守るために判断しなくてはならない瞬間は突然やって来ること、それがするために必要なことを学び、訓練で真剣に実践しておくことが大切であるとのことをご指導を受けました。

今年も学校への不審者侵入のニュースが流れましたし、商業施設等でも様々な事件・事故が起こっています。これからも命を守る取組を行っていききたいと思います。

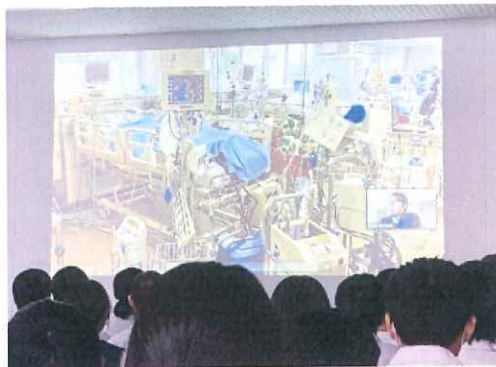


## ◇キャリア教育◇

10月11日(水)、2年生はキャリア教育の一環として、市村清記念メディカルコミュニティセンターで開催されたイベント、福岡大学一みやき町教育連携事業「命を救う仕事の魅力」に参加しました。

第一部は、『苦しかった・・・』～コロナと闘った医師の軌跡～と題した救急医療センター/ECMOセンターの星野耕大医師によるオーストラリアからのリモート講話でした。

星野医師は、重症患者に使用されたECMO治療の第一人者で、その基本的な仕組み、重症率が最も高かった時期に、九州で初めて新型コロナウイルス重症患者を受け入れた際の様々な出来事や葛藤を、当時を思い出し、涙を浮かべながら語られました。「苦難に立ち向かい続けた仲間がいたからこそ、治療の成功率を世界トップクラスに押し上げるという自分一人では成しえない結果を実現できた。」という仲間への感謝の言葉が印象に残りました。



第二部は、外科医師、内科医師、薬剤師、看護師、理学療法士、臨床検査技師、臨床放射線技師の方々への生徒からの質疑応答でした。

「現在の仕事に就こうと思った理由は何ですか?」「中学生のときは何時間くらい勉強していましたか?」「現在の職業に就いてよかったと思うことは何ですか?」といった質問に、それぞれの方が丁寧に回答されていました。

進路選択のきっかけは人それぞれながら、中学生～高校生の時期に目標を決めた時の本気度のすごさはどの方も共通でした。普段は聞くことができない、いいお話を伺うことができました。

